

ワケギ (ヒガンバナ科ネギ属)

新聞や雑誌は常用漢字の使用が多いので、胡瓜(キュウリ)や人参(ニンジン)、蚕豆(ソラマメ)などの漢字表記を目にすることが少なくなりました。野菜の漢字は、品種と同様に長い歴史と文化があるので、後世にきちんと伝えたいものです。

ワケギは漢字では分葱と書きますが、ワケネギと読んでしまう人も多いです。ワケギはネギ(葱)やタマネギ(玉葱)、ラッキョウ(辣蕪)、アサツキ(浅葱)などの仲間です。ネギやタマネギは種から栽培しますが、ワケギはラッキョウやアサツキと同じように種球から増やします。

種球からの栽培は手間のかかる育苗が不要なのでとても簡単です。ワケギは畑でなくても日当たりの良いベランダなら栽培できます。

種球は7〜8月にホームセンターなど



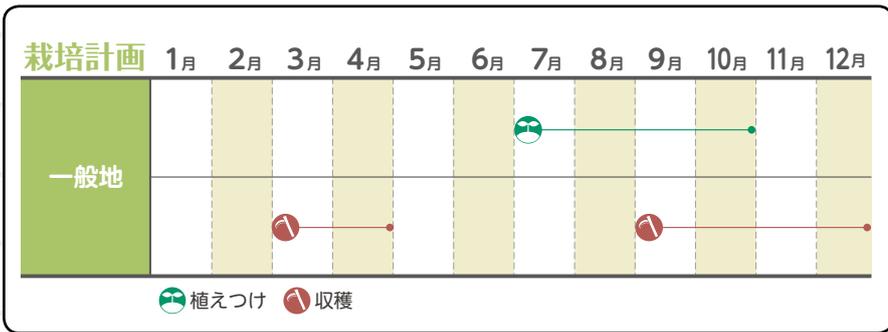
で購入します。8月下旬〜9月下旬に種球を半日ほど日に当てて乾かし、外皮を丁寧剥がし、先端の枯れている部分をはさみで切り取ります。

深さ15cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、株間10cmで2〜3球ずつ上部が少し出るように植え付けます。過湿と過乾にならないように、土の表面が乾いたら水やりします。草丈が10cmくらいになったら、1週間置きに1000倍の液肥を施します。

草丈が20cmくらいになったら、株元を2〜3cm残し、切り取り収穫します。再び葉が伸びてくるので、2〜3回収穫できます。

次回の種球を取る株は、球根を肥大させるために葉は収穫しないで伸ばしたままにします。5月に葉が枯れて倒伏したら、種球を掘り上げます。1個の球根が10〜20個以上になります。風通しの良い場所で貯蔵します。

ワケギはネギやニラののような刺激性の臭いはありません。穏やかな香りと風味を楽しんでください。酢みそあえや卵とじにするだけでなく、ナムルやチヂミにして韓国の食文化を味わうのも良いでしょう。



JAグリーン津店が教える！
栽培のポイント！

JAグリーン津店 城博一

ワケギは、水切れに注意し、水やりを欠かさないうようにしていれば、プランターや植木鉢でも充分栽培ができる野菜です。
*pHは6.0〜6.5が目安です。

《植え付け》

球根がたくさんくっついた状態の株は2〜3球ずつに手でわけ、球根を傷つけないように外皮を丁寧に取り除いてください。10cm〜15cm間隔で球根の先端が土の上に出るくらいの深さに植え付けてください。深すぎると球根が腐ることがあり、浅すぎると株がぐらついてまっすぐ葉が伸びずに倒れやすくなってしまう。

《収穫》

株元からギリギリで刈り取ってしまうと、次に出てくる葉の伸びが悪くなってしまうので、収穫後も、肥料を続けていけば、多い回数収穫できます。



スイートコーン (イネ科トウモロコシ属)

スイートコーンは温暖で強い日光を好む強健な野菜です。雄花が雌花より先に咲き受粉のタイミングがずれやすいため、集団で育てることが実入りを充実させるポイントです。

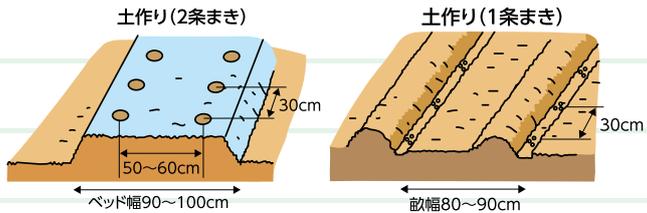
【品種】「みわくのコーンゴールドラッシュ」(サカタのタネ)、「おひさまコーン」(タキイ種苗)やバイカラーと呼ばれ黄色と白色が混じっている「ゆめのコーン」(サカタのタネ)などがあります。

【栽培時期】 遅霜の心配のない4月下旬～5月中旬が種まき期で、寒冷地では5月中旬～6月中旬です。

【土作り】 畑1平方m当たり苦土石灰100gをあらかじめ散布しておきます。次に、畝幅80～90cmを取り、深さ20cm程度の溝を切り、この溝1m当たり化成肥料(N-P-K 10-10-10%) 150gと堆肥1kgを施し、土とよく混ぜておきます。

2条まきでは、幅90～100cmのベッドを作り、1平方m当たり化成肥料200gと堆肥2kgとを全面に施し、土とよく混ぜておきます。そして、ベッドを平らにならした後、早まきではポリマルチをします(図土作り)。

【種まき】 株間30cm程度1力所3～4粒の点まき



きします。ハトに食べられないように、寒冷しゃや不織布のべた掛けをしましょう。なお、1～2株の栽培や1列だけでは、花粉が不足しやすいので10株以上、または2列以上の集団で栽培してください。

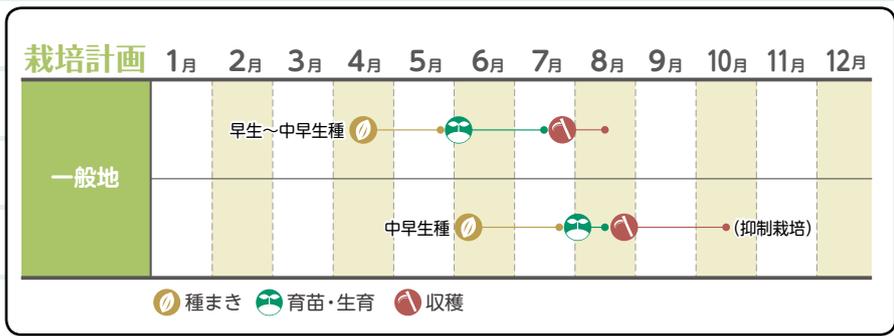
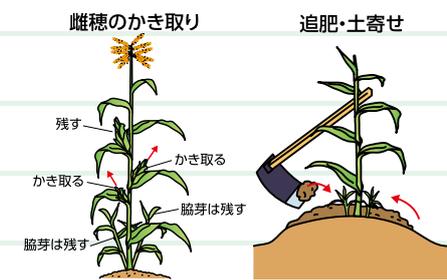
【管理】 草丈10～15cmで間引く苗を切り取り、1本立てにします。追肥は草丈50～60cmの頃、畝1m当たり化成肥料50gを列の片側に与え(ベッドでは1平方m当たり100gをベッドの両側)、株元へ土寄せします(図 追肥・土寄せ)。

そして、上の雌穂を残し、下に付く穂を全て除き、1本1穂にすれば大きい穂になります。なお、脇芽は特に取り除く必要はありません(図 雌穂のかき取り)。

【病害虫防除】 雄花がつき始めたころにアワノメイガが葉裏に産卵し、大きくなつた幼虫は雄穂や雌穂(子実)に食入します。茎や子実に入り込んだ幼虫を防除するのは困難なので、雄穂が伸びだす頃に殺虫剤を散布します。

【収穫】 絹糸が出てから3週間ほどたち、絹糸が褐変して先端の子実が乳白色に着色した頃です。早朝に収穫し、収穫後は急速に甘味が減少するため、早めに冷蔵庫に入れます。もちろん、すぐにゆで上げて食べるのが一番です。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



農業PR隊長カツラギ通信 は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信 **みてね!**

カツラギ PHOTO GALLERY